

第2学年 研究授業実践報告

令和8年度 研究主題

自ら学習を調整し、学び進める児童の育成
～「なぜ?」「どうして?」を引き出し、問いをつなぐ学びのデザイン～



2年生の目指す児童像

いくつかの問いから、学習のゴールに向かうための
問いを選択し、話し合える児童

国語科

『スイミー』学びのデザイン 「おすすめ名人になろう!」

時	従来の単元指導計画
1	教材文に触れ、感想や問いをもつ。
2	単元の目標と学習の流れを確かめる。
3	登場人物の行動や出来事を中心に、話の流れを確かめる。
4	
5	
6	
7	言葉に着目して、場面の様子やスイミーの話し方を思い浮かべる。
8	
9	
10	好きな場面とそのわけをまとめる。
11	まとめた文章を基に、感想を交流する。
12	学習を振り返り、学んだことをまとめる。

時	「問い」を中心とした単元デザイン
1	学習のゴール「おすすめ名人になろう」を確認し、教材文『スイミー』を読む。
2	物語中の漢字や言葉の意味を確認し、感想や問いを書く。
3	『スイミー』をおすすめするカードを書く。①
4	児童の感想や問いを基に学習計画を立てる。
5	文章表現に関する問いや魅力について話し合う。 「スイミーが見たすばらしいものとは、どのようなものだろう」
6	
7★	スイミーの行動に関する問いや魅力について話し合う。 「兄弟ではないのに、どうして赤い魚たちを助けたのだろう」
8	
9	スイミーの台詞に関する問いや魅力について話し合う。 「スイミーの台詞の中で、一番心に残った台詞はどれかな」
10	
11	『スイミー』をおすすめするカードを書く。②
12	自分が選んだ本をおすすめするカードを書く。

(★は研究授業本時)



成果

- ・問いについて話し合うことで、物語に対する考えを広げることができた。
- ・話し合いを通して考えを広げることで、2回目のスイミーのおすすめカードでは、1回目よりも内容を詳しく書くことができる児童が増えた。
- ・問いを中心とした単元デザインにすることで学習に能動的に取り組む児童が増えた。



課題

- ・問いの話し合いと単元のゴールとのつながりが見えづらかった。問いの話し合いをすることで、ゴールへ近付いた実感がもてるようなゴールを設定する必要がある。
- ・物語の魅力を伝える視点として、3つの項目を示したが、「スイミーのすごさ」のみに絞った方が分かりやすかった。